資料４

第２回　大牟田市地域公共交通活性化協議会

報告事項
（１）有明エリアMaaS実証実験について

<目次>

１．MaaS実証実験の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．MaaS実証実験の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
３．有明エリアにおけるMaaS実証実験の取組み（案）・・・・・・・・・・・・ 3
４．福岡県MaaSの取組みについて ・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

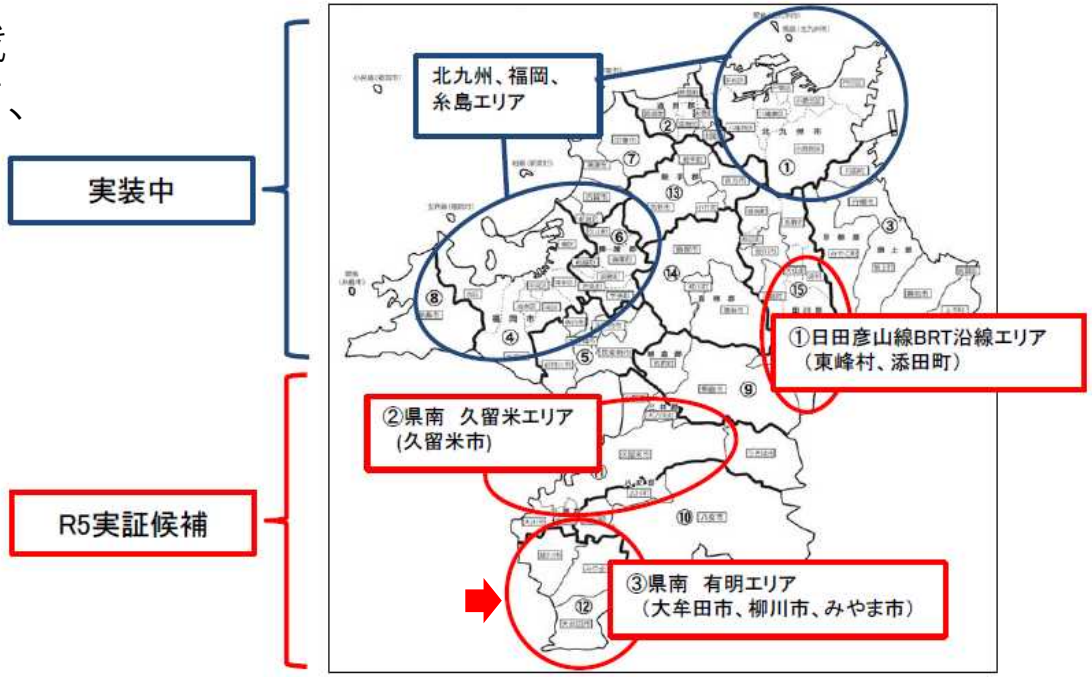
令和５年９月２９日
大牟田市　国県道路・地域交通対策課

1．MaaS実証実験の背景

○九州地方知事会と主要経済団体により構成される九州地域戦略会議において、令和４年６月に九州MaaSプロジェクト研究会を設置され、本年５月に広域MaaSの社会実装の基本構想となる「九州MaaSグランドデザイン」を策定されている。九州地域戦略会議では、来年夏頃の九州MaaSサービス開始を目標に準備が進められている。

○福岡県では、令和４年３月に「福岡県DX戦略」を策定され、交通DXの取組み一つとして、MaaS導入を推進されている。

令和５年度のMaas実証実験の候補地として、①日田彦山線BRT沿線エリア（添田町、東峰村）、②久留米エリア（久留米市）、③有明エリア（大牟田市、柳川市、みやま市）の３地区が選定されている。

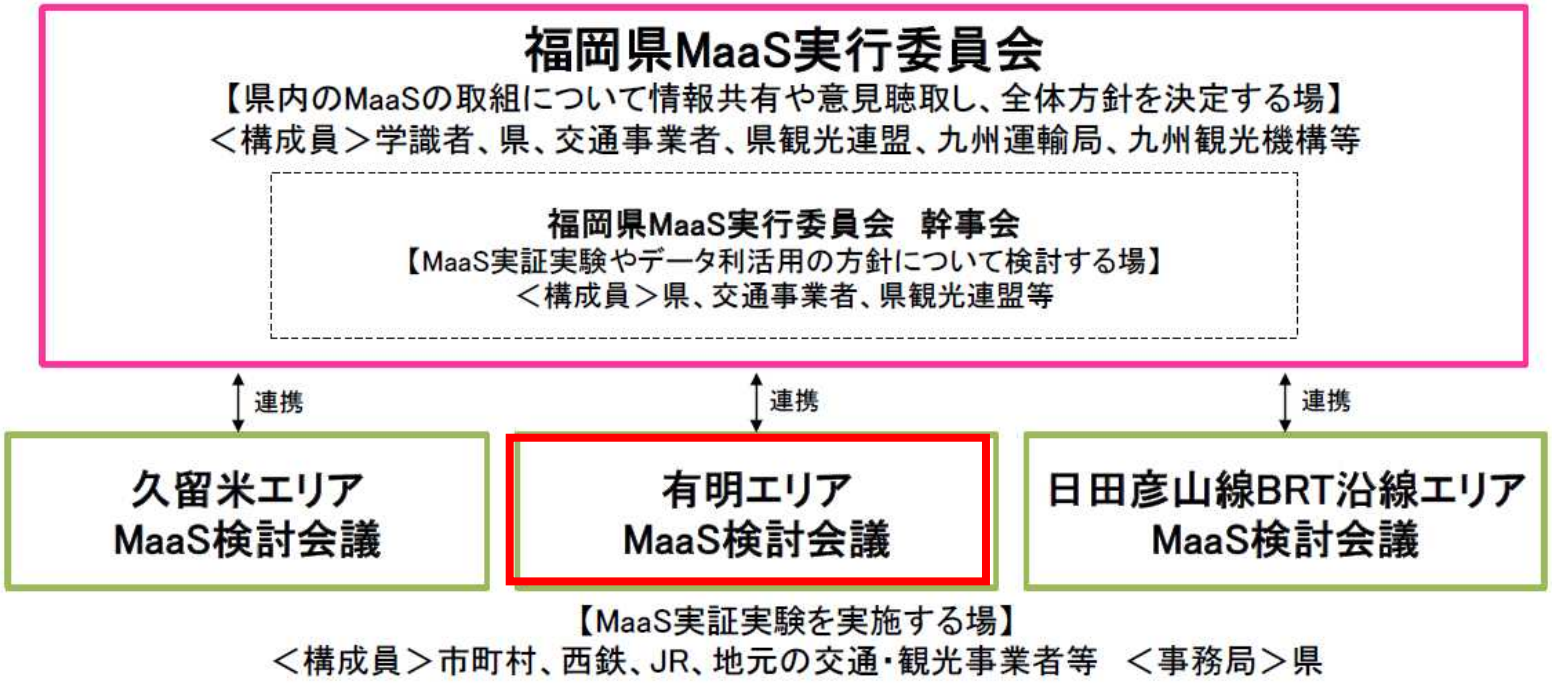


○大牟田市では、本年３月に策定した大牟田市地域公共交通計画において、MaaS等の将来を見据えた新たなモビリティサービス導入の検討を進めることとしている。

2．MaaS実証実験の概要

〇福岡県では、本年５月に学識経験者や交通事業者、観光事業者、行政等で構成される福岡県MaaS実行委員会を設置され、有明エリアを含む各候補地において、実証実験の準備が進められている。

〇大牟田市は、交通事業者や行政（大牟田市、柳川市、みやま市）、福岡県（事務局）等で構成する有明エリアの検討会議に参画し、実証実験を実施する。



3．有明エリアにおけるMaaS実証実験の取組み（案）

○目的

交通DXであるMaaSを活用し、
- ・地域公共交通の利便性向上、利用促進
- ・域外からの来訪者増に向けた地域資源を活用した周遊促進

に３市連携で取り組むことで相乗効果を図り、有明地域の交通・経済の活性化を目指す。

○取組み方針

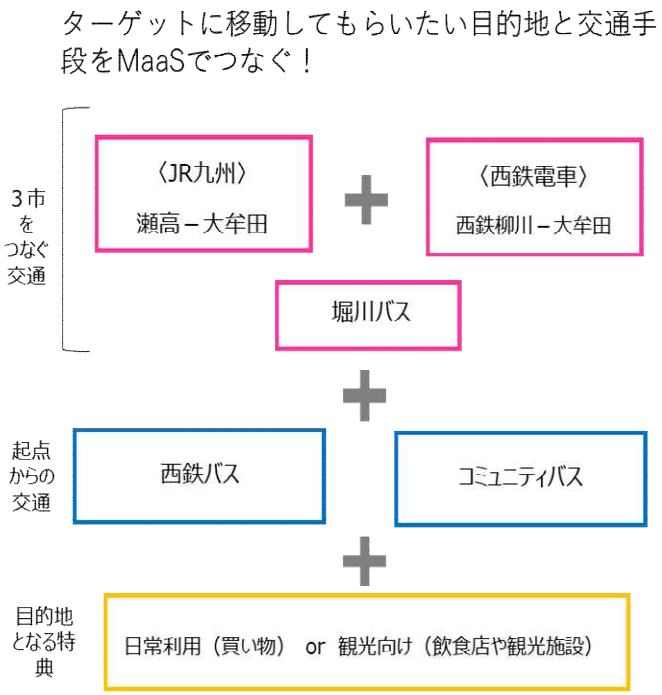
MaaSアプリを活用し、

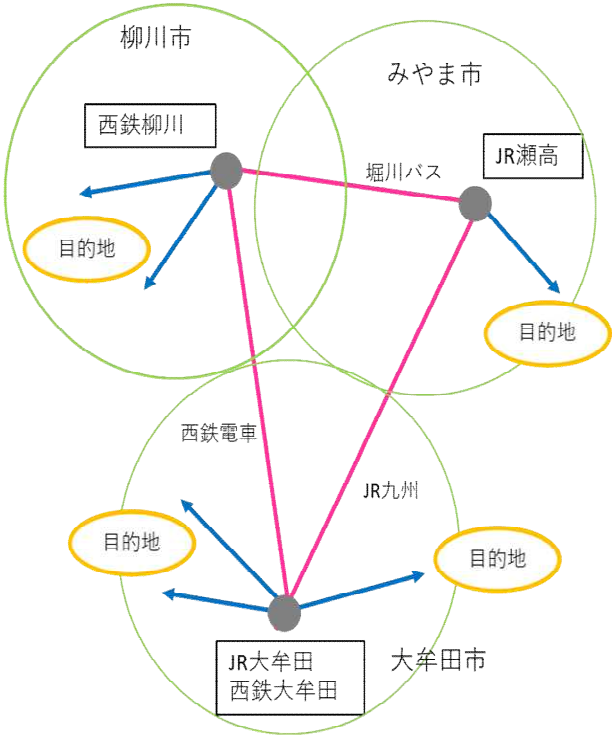
①複数の交通手段を組み合わせたルート検索・予約・決済の充実

②観光や商業とタイアップした、魅力的な企画乗車券の造成・販売

③地域独自の観光・イベント情報の掲載

＜チケット全体のイメージ＞





福岡県のMaaSの取組について

1. MaaS(マース:Mobility as a Service)とは

国土交通省「日本版MaaSの推進」より
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/japanmaas/promotion/

- **交通DX**の一つ。
- バス、鉄道、タクシー、シェアサイクル等の様々な移動手段を最適に組み合わせ、**検索・予約・決済を一括で提供するサービス**。
- 目的地におけるサービス(観光施設、飲食店等)との連携により、**移動の利便性向上**や**観光振興**にも資する**移動需要創出のための手段**。

2. MaaSに取り組むメリット・効果

①目的地までストレスなく快適な移動が可能

地域のあらゆる移動手段を切れ目なくつなぎ、行きたい場所に最後まで安心して移動できる。

2. MaaSに取り組むメリット・効果

②官民連携によって地域交通の最適化が図られ、乗り継ぎ利便性が向上

行政、交通事業者の連携により、ダイヤ調整や鉄道駅へのバス乗入れ、バス停の移設等が進み、乗り換えがスムーズに。

2. MaaSに取り組むメリット・効果

③目的における他業種（観光、商業施設等）との連携により移動需要創出

観光・イベントに関する情報配信や、割引チケット付デジタル乗車券など、移動と目的を組み合わせたサービスの提供により、利用者のお出かけ意欲向上。

12時間
フリー乗車券

＋

特典クーポン
&
ショッピングチケット

こんなにお得なチケットがあるなら、車ではなく、地域公共交通を使って、〇〇地域に行ってみようかな！せっかくなら、この観光スポットにも寄りたい。

3. 九州MaaSの動き①

「フードアイランド」宣言

九州地域戦略会議 農林水産業に重点

九州地方知事会と経済団体でつくる九州地域戦略会議は1日、宮崎市内で会合を開いた。新型コロナウイルス感染拡大で影響を受けた経済の回復をにらみ、九州創生への取り組みなどを審議。地域経済を支える重要な基幹産業として農林水産業を育成する「フードアイランド九州推進宣言」を決議した。

九州は豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、農業の産出額が全国の2割を占める食料供給基地となっている一方で、長期的な日本の人口減少を背景に、担い手不足の深刻化や、国内市場の縮小が見込まれる。

このため、宣言ではフードアイランドとしての九州の存在感を高める機会が到来しているとし、農林水産業の成長産業化を実現するための取り組みを重点的に進める方針を打ち出した。

具体的には担い手の確保・育成のためUIJターン就農や地元就農の促進、女性の経営参画や外国人の就農を促す。スマート化の推進のため人工知能（AI）やドローンを活用した作業の省力化・効率化を進める。

このほか海外市場の拡大が見込まれることから、九州の強みを生かした輸出拡大を推進する。

終了後の記者会見で広瀬勝貞共同議長（九州地方知事会会長＝大分県知事）は「九州ブランドを売り込んでいくことが重要」と強調した。

また、倉富純男共同議長（九州経済連合会会長＝西日本鉄道会長）は観光客の域内周遊を促進するため、スマートフォンで複数の移動手段の検索や乗車券の購入ができるアプリを九州全域で構築する方針を示した。

R4.6.2 日本経済新聞

九州地域共通 移動アプリ

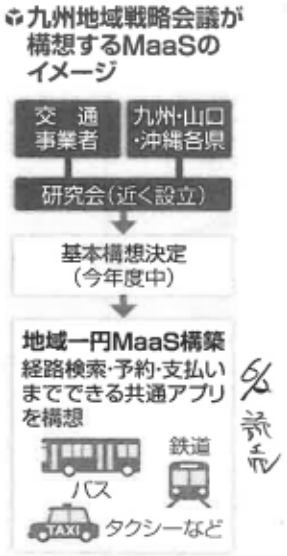
MaaS研究会発足へ

戦略会議 1～2年後導入目指す

九州経済連合会や九州地方知事会などでつくる九州地域戦略会議は1日、宮崎市で定例会合を開き、九州・山口・沖縄で共通の次世代移動サービス「MaaS（マース）」を構築するための研究会を発足することで合意した。今年度中に基本構想をまとめ、早ければ1～2年後の一部導入を目指す。

MaaSは、英語のモビリティー・アズ・ア・サービスの頭文字で、最適な交通手段を組み合わせるサービス。研究会にはバスや鉄道、タクシーなどの交通事業者に加え、各県の交通部門が参加する。事務局は九経連が務める。MaaSの共通アプリをつくり、検索から予約、決済まで一括して行えるシステム基盤の構築を目指す。

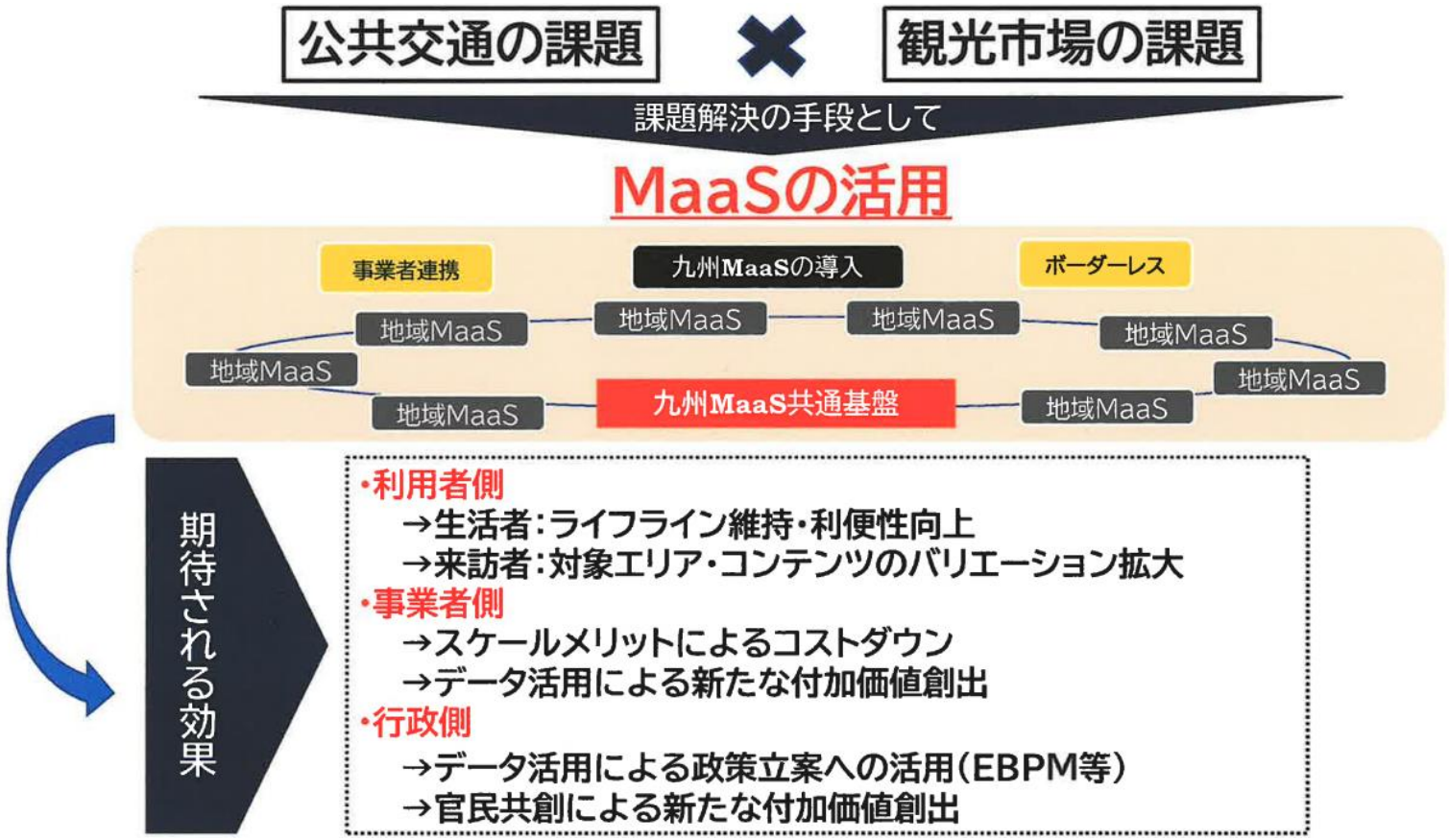
MaaSは各地で実証実験が進んでいるが、県境を越えた広域での取り組みは珍しい。外国人ら観光客の利便性向上に加え、過疎地の交通対策にも活用したい考えだ。戦略会議の共同議長を務める九経連の倉富純男会長は1日の記者会見で、「観光産業の再生にはMaaS基盤が不可欠だ。地域住民にもプラスで、過疎地の交通機関の課題解決にも活用したい」と述べた。



R4.6.2 読売新聞

3. 九州MaaSの動き②

- 九州経済連合会の主催する「九州MaaSプロジェクト研究会」が発足。
- 「九州MaaSプロジェクト研究会」において、九州広域でのMaaS推進体制構築を目指す。



MaaSの拡張により、地域課題を順次解決することを目指す

3. 九州MaaSの動き③

研究会の構成

■座　長　九州経済連合会：中川 観光社会基盤部長

■副座長　宮崎県　：佐野 総合政策部 総合交通課長　※九州創生アクションプランにおけるMaaS幹事県

九州産交バス　：宮田 営業本部長　※MaaS導入に積極的＋共同経営にも取組んでいる

■委員（31団体・48者）

	山口（下関）	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
県	交通政策担当部局 および 観光政策担当部局								
政令市	福岡市・北九州市・熊本市の交通政策担当部局 および 観光政策担当部局								
鉄道		九州旅客鉄道 西日本鉄道		長崎電気軌道		熊本電気鉄道			
バス	サンデン交通	西日本鉄道 JR九州バス	昭和自動車 祐徳自動車	長崎自動車 西肥自動車	大分交通 大分バス	九州産交バス 熊本電気鉄道	宮崎交通	いわさきコ 南国交通	（第一交通産業）
タクシー		第一交通産業				TaKuRoo			
団体	九州経済連合会、九州観光機構								

■オブザーバー（9者）

【行政】九州運輸局、九州経済産業局、九州地方整備局、九州地方環境事務所

【業界】九州鉄道協会、九州バス協会、九州乗用自動車協会、福岡県タクシー協会、日本旅行業協会、

■アドバイザー　㈱MaaS Tech Japan代表（JCoMaaS 理事）日高 洋祐氏

■事務局　九州経済連合会、九州観光機構、九州旅客鉄道、西日本鉄道

4. 県全体でMaaSに取り組む必要性・方向性

MaaSは地域交通をリ・デザインするための手段

地域の様々な交通課題に対し、デジタルを活用しながら、地域交通を持続可能な形に“リ・デザイン”する

“官民”＋“交通事業者相互間”＋“他分野を含めた”「共創」が必要

行政の観光政策・交通政策としての性格も大きい
交通はもちろん、観光をはじめとする他分野にもつながる「裾野が広い」取組

↓

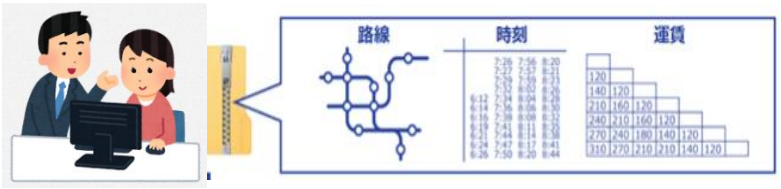
地域の限られた交通手段をどうつなげていくか、観光資源を活用し、
移動需要をどう掘り起こしていくかなど、「**共創**」の考え方を踏まえ、
行政、事業者等の関係者で知恵と費用を出し合い、
持続可能な地域公共交通の実現、**地域活性化**を推進していく。

取組の全体像

～MaaSから始まる、福岡県の交通DX戦略～

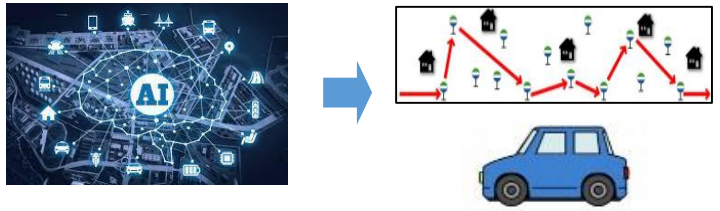
検索可能にする

交通情報のオープンデータ化



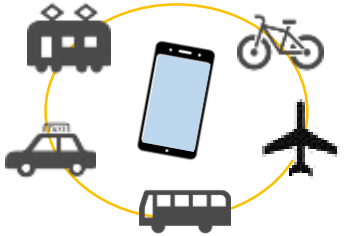
新たな交通手段確保

新たなモビリティ（AIオンデマンド）



交通モードをつなぐ

MaaS導入



MaaSプラットフォームによるデータ利活用

デジタル化によって集められる様々なデータを**集約**し、**突合・分析・可視化**

データに基づく政策立案（EBPM）

計画策定の効率・高度化

交通事業の最適化

他分野・民間における活用展開

子どもから高齢者まで、だれもが行きたいときに、行きたい場所へ、快適に移動できる社会

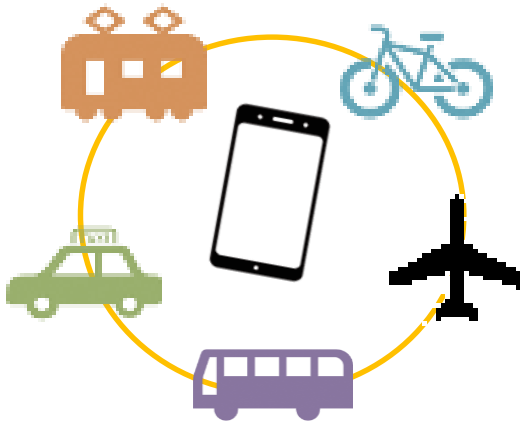
空気ではなく、笑顔と喜びを運び、地域の活気を呼び起こす、官民共創でデザインする社会

新しいことにチャレンジし、分野横断的な地域課題を解決する持続可能で豊かな社会

5. 具体的な取組①

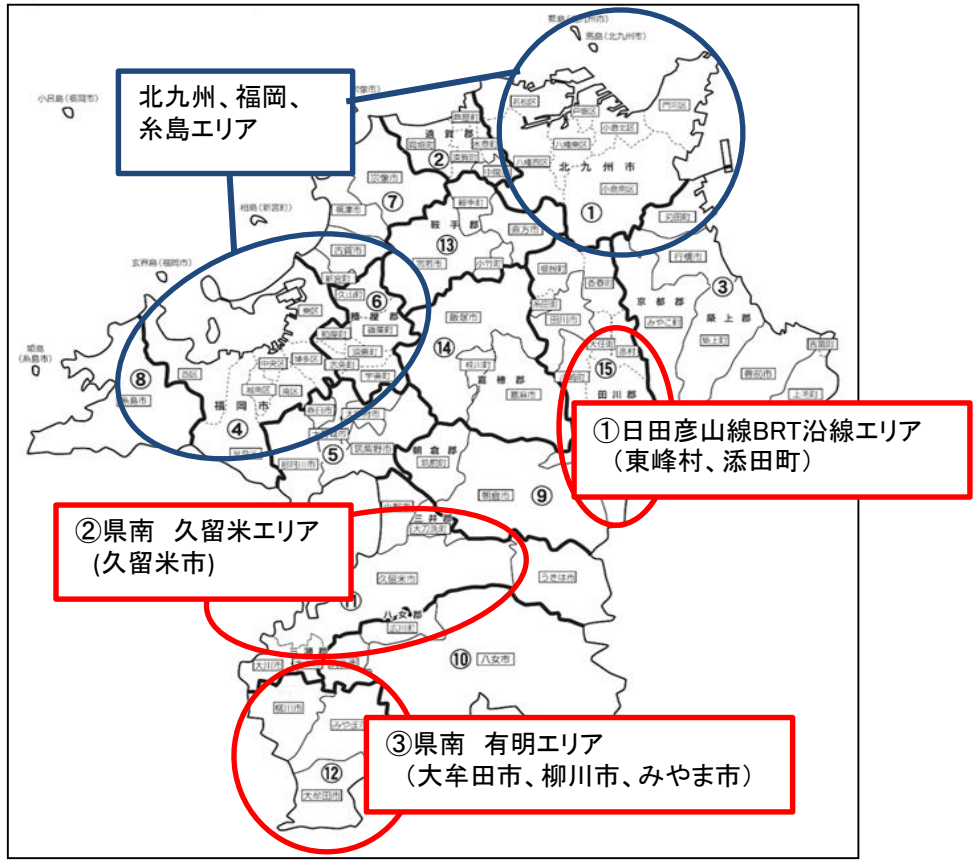
①県内のMaaS導入エリア拡大

・官民連携による検討会議を立ち上げ、地域の実情に応じたMaaS実証実験を実施。
・MaaSを活用して、地域交通の利用促進や観光振興等につなげる。



実装中

R5実証候補



6. MaaS実証実験の取組方針

○　本県は、市町村・エリアごとに異なる地域の交通課題が存在。
（利便性向上、移動手段の確保、運転手不足、渋滞対策など・・・）

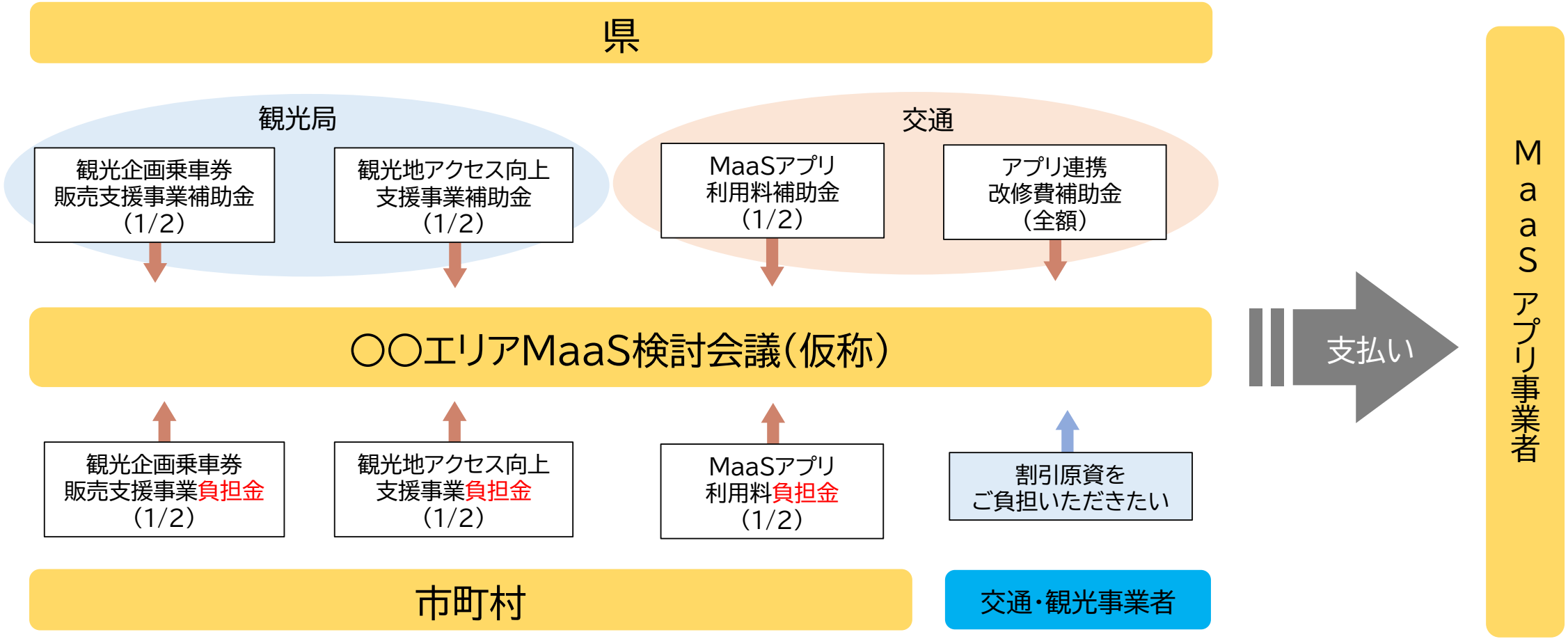
○　地域の課題解決のために、**MaaSを活用することでどのような効果が発揮され、MaaSが課題解決にどう資するかを検証する実証実験**を実施。

○　得られた効果や有用性をもとに、**どう実装すべきかを検討する**とともに、**好事例を他地域にも横展開**させ、**福岡県全体でMaaSを推進**していく。

7. MaaS実証実験のスキーム

○ 令和５年度から、市町村(交通・観光)、交通事業者、県（事務局）等で構成する検討会議を設置・開催。

○ 実証実験に関する事業費(エリア利用料、企画乗車券造成費等)について、検討会議に対し、市町村等が負担金として１/２、県が補助金として１/２を負担。交通・観光事業者には割引原資等で協力を依頼。



8. 県によるMaaS関連の支援

観光局

観光企画乗車券販売支援事業〈補助率 1/2〉

交通チケットと観光施設入場券や体験プログラム、飲食店のチケット等がセットになった観光目的の企画乗車券の販売促進

補助対象経費	企画乗車券のMaaSアプリへの登録に要する経費。 MaaSアプリの使用に要する経費（企画乗車券に関わるもの）。企画乗車券の広報費。

観光地アクセス向上支援事業〈補助率 1/2〉

公共交通機関の駅等から観光地までのアクセス向上を図るためのモビリティ等導入の実証事業

補助対象経費	モビリティのリース料。モビリティの設置・管理・運営の経費。広告宣伝に要する経費。

交通

MaaS導入事業補助金

地域公共交通の利用促進や地域振興を図るため、地域の実情に応じたMaaS実証実験を新たに実施するための事業

・MaaSアプリ利用料 〈補助率 1/2〉

補助対象経費	企画乗車券の造成や観光情報を掲載する際に必要なMaaSアプリの利用料。

・アプリ連携に要するシステム開発・改修費 〈補助率 10/10〉

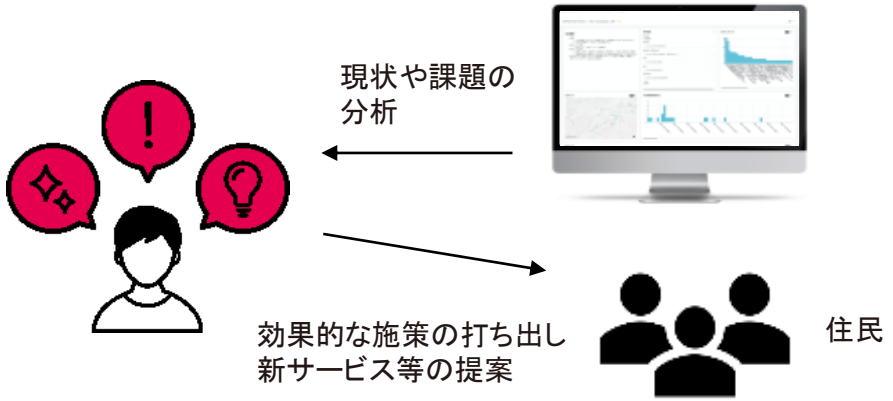
補助対象経費	MaaSアプリと他の予約アプリを連携させるためのシステム開発や改修費用。

※ すべて補助対象者は「MaaSを推進する会議体」

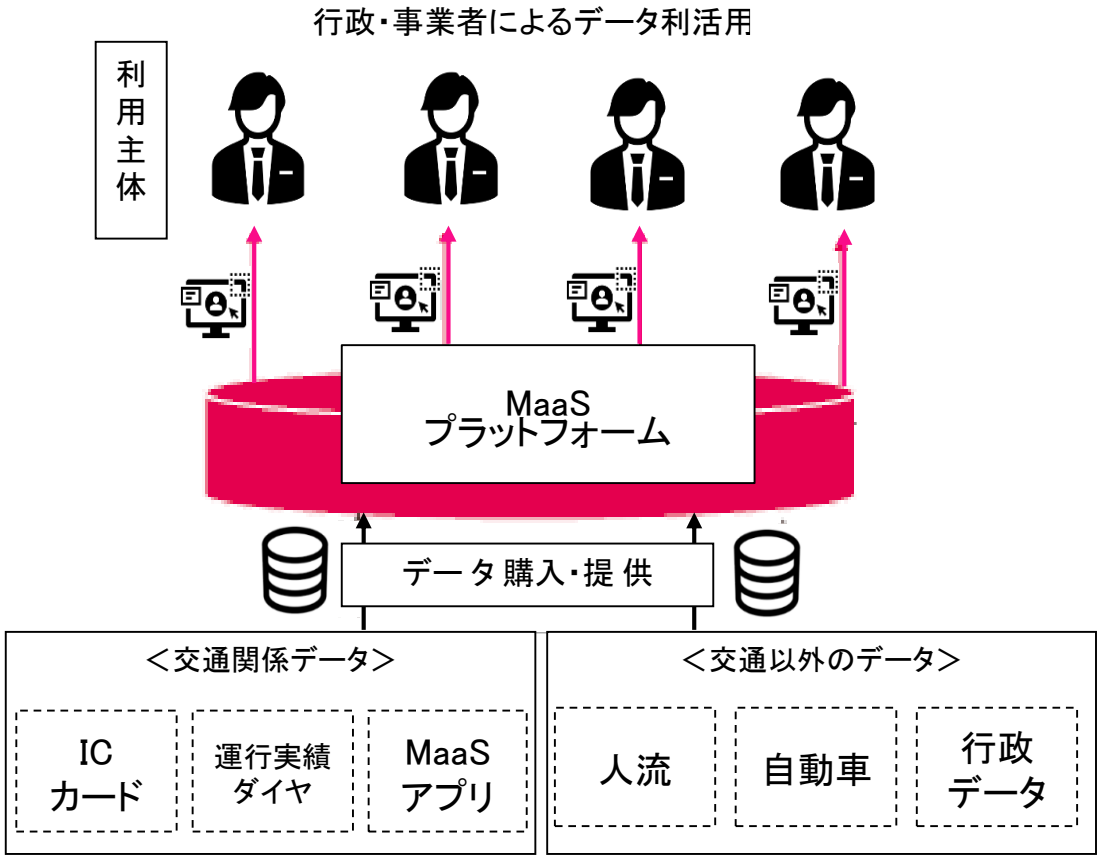
9. 具体的な取組②

②MaaSプラットフォームによるデータ利活用

・MaaSプラットフォームを構築し、MaaS導入によって得られるデータやICカードデータ、人流データ等を突合・分析・可視化。
・そこで得られたデータを活用し、交通政策立案や交通事業の最適化を図る。



データに基づく政策立案（EBPM）



10. 運営体制

福岡県MaaS実行委員会

【県内のMaaSの取組について情報共有や意見聴取し、全体方針を決定する場】

＜構成員＞学識者、県、交通事業者、県観光連盟、九州運輸局、九州観光機構等

福岡県MaaS実行委員会　幹事会

【MaaS実証実験やデータ利活用の方針について検討する場】

＜構成員＞県、交通事業者、県観光連盟等

連携　連携　連携

久留米エリア MaaS検討会議

有明エリア MaaS検討会議

日田彦山線BRT沿線エリア MaaS検討会議

【MaaS実証実験を実施する場】

＜構成員＞市町村、西鉄、JR、地元の交通・観光事業者等　＜事務局＞県

＜目指すもの＞

県内及び県外からの移動者のニーズに対して最適な移動手段を切れ目なくつなぎ、**持続可能で多様かつ質の高い地域公共交通の実現、地域活性化を図る。**

11. ロードマップ

	R5	R6	R7～
データ利活用	データ連携基盤の構築、行政（県・市町村）におけるデータ利活用実施		
		他分野・民間への展開	
MaaS導入	MaaS実証実験の実施（R5:久留米、有明、日田彦山線BRT沿線） ⇒更なるMaaS導入エリア拡大		
新たなモビリティ	AIオンデマンド交通の導入・運行支援		
		新たなモビリティ導入に向けた検討・実施	
オープンデータ化	コミュニティバス情報のオープンデータ化支援	オープンデータ化実施に向けた更なる取組を検討・実施	